

校長室の窓から ~夢の扉第18号~ vol. 118 R4.8.16(火)



文責 学校長

後期補習が始まりました。

1 全国の舞台に挑戦・・・全国の厚い壁に挑戦しました。全国総文祭も開催されました。

四国4県を会場に「躍動の青い力 四国総体 2022」が開幕し、7月25日～27日に高知県立県民体育館で行われた相撲競技に1名、7月29日～31日に高知県立春野総合運動公園体育館で行われた少林寺拳法競技に男女14名、8月3日～7日に鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアムで行われた陸上競技に2名、8月6日～9日にとくぎんトモアリーナ（徳島市立体育館）で行われた弓道競技に男子6名が、それぞれ出場しました。また、7月31日～8月4日の日程で「とうきょう総文2022」が東京都で開催されました。8月1・2日に日本棋院東京本院で行われた囲碁部門に3名、7月31日～8月4日に東京都美術館で行われた美術部門・書道部門にそれぞれ1名、7月31日～8月1日に東京文化会館で行われた吹奏楽部門に1名が、それぞれ参加しました。また、NHK全国放送コンクールにラジオ創作番組部門で参加しています。なお、8月15日～18日に高知市東部総合運動場くろしおアリーナで開催中の水泳競技に1名が参加しています。

2 男女バスケットボール部が杵藤地区大会で優勝しました。

7月30日(土)に杵藤地区バスケットボール新人大会が行われ、男女とも優勝に輝きました。前回大会も共に優勝しており、再び優勝旗を持ち帰ってくれるだろうと期待していましたが、新チームも期待通りの戦いぶりで、男子は鹿島高校との決勝戦で85対33で、女子は白石高校との決勝戦で51対35で勝利し、優勝旗を再び持ち帰りました。秋の県大会での活躍が期待されます。男女共に果敢に攻める試合運びで、現3年生以上の上位進出も期待されます。



3 体験入学・武雄青陵中学校とのジョイントスタディを開催しました。

8月1日(月)に本校で市町中学生の体験入学を、2日(火)に武雄青陵中学校で高校1・2年生徒、青陵中学1・2年生とのジョイントスタディを行いました。また、青陵中学3年生が武雄高校の授業を体験しました。1日(月)の「体験入学」は、吹奏楽部の歓迎演奏で始まり、教務主任の説明、生徒会の説明、体験学習の発表の後、希望別に体験授業を受講し、施設・部活動の見学を行いました。2日(火)の「ジョイント・スタディ」は、コロナ第7波の最中ではありましたが、換気を十分に行いつつ、パーテーションパネルを活用して高校生が中学生に直に勉強を教えるという従来の方法での実施に戻しました。また、中学3年生は武雄高校の先生から「高校の授業のレベルを知ろう」という内容の授業を体験しました。協力していただいた生徒・先生方有難うございました。



4 今週の名言・・・森博嗣(作家・工学博士)の言葉です。

○人生にはテキストもノートも助っ人も、何でも持ち込めます。
○「やる気」も「やりがい」もちょっとした装飾である。「やる気」の有無は重要ではない。
問題は「やる」か「やらないか」の違いだ。

【解説】「やる気がでないから」「YouTubeを見てから」と自分の怠け心に言い訳をしている人はいませんか。やる気が出ようと出まいとまず机に向かう習慣を作るか作らないかです。私の場合は「文章修業ノート」に取り掛かることが机に向かい勉強を始めるスイッチでした。その後の4、5時間は当たり前前の習慣に。要は、取り組むか取り組まないか。その違いがその後の人生を大きく左右します。

【森博嗣について】1957年、愛知県に生まれる。本の工学者・小説家・随筆家・同人作家。学位は工学博士(名古屋大学)。1995年の夏休みに処女作『冷たい密室と博士たち』を約1週間で執筆。原稿募集が始まったメフィストに投稿し、編集部から次作の要望を受ける。第4作『すべてがFになる』の完成後、メフィスト編集部がメフィスト賞の誕生を発表。『すべてがFになる』が第1回メフィスト賞受賞作となる。それ以降も大学で勤務しながらハイペースで作品を発表し、一躍人気作家となる。当初の著者プロフィールでは「国立N大学助教授」や「某国立大学の工学部助教授」としていたが、2005年に名古屋大学を退官した後は「作家」や「工学博士」などに変更している。

5 今週の話成語・・・「春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら肅しむ」【問題】英語で表現すると？

人に対しては春風のように優しく爽やかに接し、自分自身に対しては秋の霜のように厳しく行動を問いたすこと。(出典:『言志後録』より)

【由来】「春風の和やかさをもって人に接し、秋霜のきびしさをもってみずからを律する」という佐藤一斎先生からの教訓です。佐藤一斎は、幕末の儒学者で『言志後録』の著者です。美濃国岩村藩士の二男として江戸藩邸内で生まれました。昌平坂学問所に入門し、塾長に昇進。その後は儒学の大成者として幕府からも認められました。門下生は六千とも言われ、渡辺崋山、佐久間象山、横井小楠など、幕末において活躍した人材を多く輩出しました。四十余年かけて著わした「言志四録(げんししらく)」は有名です。人に優しく、自分に厳しく…できそうで難しい。歴史上に名を馳せた人物について目が向きがちですが、活躍した人の陰には必ず立役者がいます。頂上の岩を支えるには更に大きな礎となる人がいる、ということです。



6 入試によく出る漢字(その43)・・・センターテスト(1997年度追試験)に挑戦!

- (1) 喋り方、言い遣え、言いよどみ、感情の抑ヨウ等々〔①気分が高ヨウする。②細菌を培ヨウする。③少数意見を採ヨウする。④人権をヨウ護する。⑤反論に動ヨウする。〕
- (2) あたかも私たちにヨ有のく生きた空間>、〔①企業のヨ用を促進する。②青年時代を回ヨする。③在庫品のヨ数を調べる。④ヨ意に反則を犯す。⑤ヨ体から液体に変化する。〕
- (3) ソウじて言語の生命的要素を目ざめさせる方向への〔①事件のソウ查が進展する。②独ソウ的な作品を作る。③新作の構ソウを練る。④被害のソウ額を計算する。⑤飛行機のソウ縦を学ぶ。〕
- (4) 物語的時間に同化することを文学キョウ受の必須の条件と〔①建物の大きさにキョウ嘆する。②祖父のキョウウ年は八十歳でした。③キョウウ味がある人は残る。④会議に場所を提キョウする。⑤主人公の生き方にキョウ鳴する。〕
- (5) 琵琶ダン奏の影響を認めなければならないでしょう。〔①友人の相ダンに乗る。②反対派をダン圧する。③最終的な決ダンを迫る。④あらゆる手ダンで対抗する。⑤劇ダンの公演を楽しむ。〕

7 今週の一冊・・・原田ひ香の「ランチ酒」(祥伝社文庫)です。

泣きたいときもあるけれど、食べて、飲んで、生きていく! 疲れた心にじ〜んと沁みる、珠玉の人間ドラマ × 絶品グルメ小説。犬森祥子、バツイチ、アラサー、職業は「見守り屋」。営業時間は夜から朝まで。様々な事情を抱える客からの依頼で人やペットなど、とにかく頼まれたものを寝ずの番で見守る。そんな祥子の唯一の贅沢は、夜勤明けの晩酌ならぬ「ランチ酒」。別れた夫のもとで暮らす愛娘の幸せを願いながら、束の間、最高のランチと酒に癒される。腹の底から生きる力が湧いてくる、絶品五つ星小説! (参考: 本書裏表紙説明より)

ランチ酒 原田ひ香

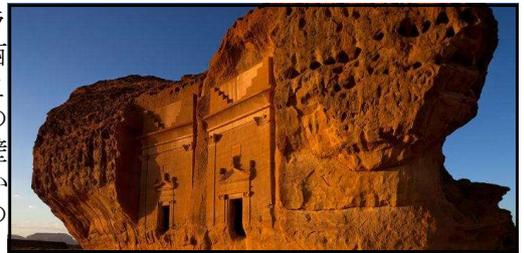


【解説】第16号で紹介した「三千円の使い方」の原田ひ香さんの作品です。タイトルと表紙の挿絵(焼き鯖定食)に魅かれ手に取ってみました。帯の「絶品グルメ小説」の書評から女性版『孤独のグルメ』の匂いが漂ってきたので、思わず購入。冒頭の武蔵小山の肉井の描写は「花開いている。薄切りの牛肉が井の上に隙間なく敷き詰められて、薔薇のように花開いている。その上に、がりりと黒コショウがたつぷり。」と垂涎の一皿と言えるような見事な描写ぶり。まさに『孤独のグルメ』を思い起こさせる、それでいて主人公を取り巻く人間模様も読者を惹きつけます。続編の『ランチ酒おかわり日和』・『ランチ酒今日もまんぶく』も楽しみです。

【作者・原田ひ香について】1970年、神奈川県生まれ。2006年「リトルプリンセス2号」で第34回NHK創作ラジオドラマ大賞最優秀作受賞。07年「はじまらないティータム」で第31回すばる文学賞受賞。著者に『ランチ酒 おかわり日和』・『東京ロンダリング』・『母親ウエスタン』・『彼女の家計簿』・『三人屋』・『三千円の使いかた』・『まずはこれ食べて』・『口福のレシピ』などがある。(参考: 本書表紙裏の著者紹介文より)

8 世界遺産を巡る・・・第68回はヘグラの考古遺跡(サウジアラビア) (登録: 2008年)

【解説】ヘグラの考古遺跡(アル=ヒジュル/マダイン=サーレハ)とはサウジアラビアにある世界遺産で、かつてあった古代都市です。その都市遺跡が同国北西部のヒジャーズ北部にあり、サウジアラビア初の世界遺産となっています。この町は『アル=ヒジュル(岩だらけの場所)』とも呼ばれていて、古代には、この都市にはナバテア人などが住んでいました。この都市遺跡は、装飾された外壁が保存された墓石群を中心に、ナバテア人たちが暮らしていた紀元前1世紀から紀元1世紀頃のものを中心で、ナバテア人の考古遺跡としては、ヨルダンのペトラ遺跡に次ぐ規模を誇ります。(参考: 「世界遺産人気ランキング」より)



9 街角グルメを訪ねて・・・第68回は有田町の「元祖佐賀つけ麺 孤虎(ことら)」です。

有田町の役場近くに5月25日、県内初となるつけ麺専門店がオープンしました。店を営むのは、伊万里市内で韓国料理店やバーなど3店を経営する、株式会社 TSUNAGARI 代表の廣田揚佑さん。「県内には、つけ麺を出すラーメン店などはあるものの専門店はありませんでした。出店にあたって、北海道から関東、関西、九州まで、全国のつけ麺を食べ歩きました。」とのこと。魚介豚骨の濃厚なつけ汁が主流のつけ麺ですが、全国を食べ歩く中で廣田さんが出合ったのが「昆布水つけ麺」。麺を昆布水(だし)に浸して提供する、新しいスタイルのつけ麺です。「魚介豚骨は、その濃厚さゆえ食べる層が限られてしまう。子どもから年配者まで幅広い層が食べられる、あっさりとしたつけ麺にしたかったんです」と廣田さん。住所は、有田町立部乙2236-8です。



10 保護者の皆様へ・・・お盆の帰省でさらに感染が拡大してくるかもしれません。

7月下旬から畏るべき第7波が押し寄せ、8月のお盆の帰省で全国的に感染がさらに拡大する恐れがあります。後期補習が始まりましたが、お子様及びご家族の体調に異変がある場合には、登校を控えてください。

【英語】◇ Get in touch with people with the spring breeze and refrain from yourself with the autumn frost. ◇ Associate with others warmly as a spring breeze, and discipline yourself strictly as an autumn frost.

【正解】(1) 抑揚〔高揚・培養・採用・擁護・動揺〕(2) 固有〔雇用・回顧・個数・故意・固体〕(3) 総じて〔捜査・独創的・構想・総額・操縦〕(4) 享受〔驚嘆・享年・興味・提供・共鳴〕(5) 弾奏〔相談・弾圧・決断・手段・劇団〕